

マレーシア編

庶民の味方！ まだまだ健在の伝統市場



クランタン州コタバルの伝統市場(左)。各地にある夜市

マレーシアにはショッピング天国と言われるほど多くのショッピングモールが存在しています。首都圏だけでも200を超えるモールがあり、それぞれ特色があります。

その一方で、伝統市場もまだまだ健在。特に食料品の価格はモールのそれよりも断然安く、庶民の味方。物価が高騰するマレーシアでは伝統的市場は買い物に欠かせないのです。

伝統市場は2種類があります。

まず、建物のなかにある市場で、マレー語でPasar Borongと呼ばれるもの。クアラルンプールには28カ所あり、繁華街ブキビンタン近くにも一つあります。この建物のなかにはさまざまな店舗が並び、肉類や魚介類、野菜はその日に収穫した新鮮なものが多く並びます。

もう一つは多くの露店が一つの通りに集中して指定の日時に開く市場。クアラルンプール市内には午後6時ごろから午後11時ごろまで開かれているパサール・マラム(夜市)が100カ所ほどあります。また、午前中のみ開かれる露店が集まった市場もあり、それぞれ多くの庶民が買い物をします。

タイ・バンコクのシーロム通りに夜に出店する市場に似たものがありますが、マレーシアで少し違うのはマレー人向けと華人向けに分かれているのが特徴です。華人は豚やアルコール類を扱うため、マレー人はいっしょに露店を並べるのを嫌います。食料品でない露店は関係ありませんが。

夜市で並んでいるのは食材だけではなく、生活用品に欠かせないものも数多く並びます。洋服やアクセサリ、下着、ベッド、コンセントやリモートコントロールなど電気関連用具など。安価なものが並びますが、ほとんどが中国製であるため、品質に関してはあまり保証ができないのが難点です。

これら伝統市場はマレーシア国内各地にあります。州都となるような都市などの市場は、その土地土地の特色ある品物も並んだりしているので、訪れた先でのぞいてみるとういでしょう。